



学校データ  
【学級数】  
27学級  
【児童生徒数】  
714人  
【地域コーディネーター  
の有無】  
有(2名)

## 地域とのつながりで「応答力」を育む

### 1 はじめに

本校は、創立134年の伝統のある学校である。学区には新しい商業地域が近くにある一方で、地域に根差した商店も残っている。小針のまちには、子どもたちの登下校を見守り、あいさつや会話を交わして下さる方や学校と共に歩んできた地域の方々が多くいる。こうした環境の中で、子どもたちは素直に育ち、学習活動に一生懸命取り組むことができている。

一方で、自ら課題を見つけて、他者と関わり合いながら、探究的に学びを進めていくという経験が不足しているため、考えを進んで発表したり、他者と進んで関わったりする活動に対して苦手意識をもつ子どもが多い。そこで、地域とのつながりを重視した学習活動によって、地域の諸問題と向き合い、多様な他者と協働しながら探究的に問題を解決していこうとする未来社会の担い手に育ててほしいと考え、本実践に取り組んだ。

### 2 取組の実際

本校では、「身の回りに生じる様々な状況・問題に対して、自分を開き、自らもてる力を総動員して、異なる多様な他者と協働して力を合わせながら最適な解決方法を探し出していく力」を「応答力」と定義し、生活科・総合的な学習の時間を中核として育成することを目指し

ている。本実践は、6年生の総合的な学習の時間において、地域とのつながりを軸に「応答力」の育成を目指した活動である。

#### (1) 地域の本物の課題を見付ける

- ① 地域が抱える課題を知るために、家族を対象に聞き取り調査をしたり、西区長から行政の立場として把握している西区の現状について聞いたりする。



西区の現状について区長と意見交換をする

- ② 集めた情報から、今後自分たちが解決すべき課題とその方法を定める。
- ③ 孤立の問題を抱える地域の高齢者の方々のために、どのような活動を行うべきか、活動の方法とその順序を考える。

#### (2) 地域の方々と共に問題と向き合う

- ① 地域の高齢者を対象にしたアンケートを分析し、交流会を開く上で年代別にどのような活動が好まれる傾向があるのか分析する。
- ② 自分たちで選択した取組を健康福祉課、社会福祉協議会、地域の民生委員

を含む関係機関の方に提案し、それぞれの取組の実現の可能性について協議を行い、決定する。



関係機関の方々や地域の茶の間についての協議を行う

### (3) 地域に成果を還元する

#### ①「地域の茶の間 in 小針」を実施する。



「地域の茶の間 in 小針」を小針小学校で開催

②参加していただいた方々のアンケートをもとに、これまで行った活動によって、問題の解決に近づくことができたか話し合う。

③行政の方や地域の茶の間運営者に「地域の茶の間 in 小針プロジェクト」の提案を行う。



西新潟市民会館で活動の成果の発表を行う

## 3 成果と課題

### 及び本実践で育成された資質・能力

#### (1) 成果

本実践を通し、応答力を発揮する具体の姿として、以下の資質・能力を子どもたちが身に付けることができた。

##### ① 知識・技能

高齢者の交流の場をつくる活動を通して、高齢者だけではなく、多世代が関わりをもち、地域全体の交流を目指し、継続することに意味があることを理解することができた。

##### ② 思考力・判断力・表現力等

西区長や行政の担当者へのインタビューから、高齢者を取り巻く状況をつかみ、交流会の実施のための課題や必要な取組について、具体的な見通しをもつことができた。

##### ③ 学びに向かう力・人間性等

地域の茶の間の活動を地域の方々と力を合わせて開催することで、高齢者の交流の再開に役立つことができた自身自身に気づき、地域の一員として世代を越えた交流のために継続してできることを考え続ける姿が見られた。

#### (2) 課題

このように地域と深くつながり、協働的に展開していく活動を持続可能なものにするのが課題である。子どもたちの学びの文脈を第一にしながら、担当者が変わっても、地域参画を積極的に行う活動を持続・発展させていく学校内・地域の仕組みを確かなものにしていきたい。

## 4 おわりに

新型コロナウイルスの影響がある中、人と人とのつながりをつくる活動を支えてくださった地域の方々に深く感謝すると共に、改めて地域全体で子どもを育てていくことの重要性を強く感じた。